

会計学原理 II

科目ナンバリング ACC-104
選択必修 2単位

徳山 英邦

1. 授業の概要(ねらい)

会計学原理IIでは、会計の目的、財務諸表(会計データ)の見方と会計システムを学修します。講義方法は、当日の学修テーマを概説し、演習問題で具体的課題箇所を実感してもらった上で、再度その学修意義を解説する手順で行います。会計学原理Iと同様に、簿記の理解に根差した理解が重要です。さらに、財務諸表の利用者の立場の学びとして財務分析が追加されます。

2. 授業の到達目標

経済学部での学びの中の本科目の役割として、以下の2つを当初の成果目標とします。

1. 企業経営における簿記・会計学の役割を理解し、説明できる。
 2. 企業経営に関する基礎的理論、事業展開に必要な資金の流れを理解し、説明できる。
- 上記の学びの成果を基礎として、以下の2つを到達目標とします。
1. 実社会の出来事について自ら学び、吸収することができる。
 2. 企業経営の場で生起する実践的課題に対処できる専門的な知識・スキルと態度を有する。

3. 成績評価の方法および基準

①自ら学び、吸収する不断(普段)の態度の評価として授業各回のミニッツペーパーや受講姿勢等(65%)、②専門知識の修得力評価として小テスト(2,3回)、LMSを活用した課題(35%)を目安として、総合的に判断します。

4. 教科書・参考文献

教科書

新田忠誓、他著 『会計学・簿記入門』(第17版) 白桃書房

参考文献

近田典行、他著 『基本から学ぶ会計学』 中央経済社

5. 準備学修の内容

「学びの種を蒔く回」と「収穫(修得)の実感を伴う回」のタイミングが各回で完結しない箇所があります。当日内の答えの照合をあせらずに、試行錯誤する時間を大事にしてください。過去2回分との関連学習60分、学習全体における今回の学びの位置づけの理解30分、その未消化領域の復習30分を目安に学習してください。

6. その他履修上の注意事項

電卓、3色ペン、各回に配布済みのプリントを毎回持参して下さい。

7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンス(授業の進め方、成績評価、履修上の留意点)、会計学原理Iの復習
- 【第2回】 会計学原理Iの要点(投資、消費及び浪費、出資、融資及び収益獲得活動、ストックとフロー)
- 【第3回】 商品売買の会計処理①—売上原価の計算:売上高と対応費用(費用収益対応の原則、分記法との比較)
- 【第4回】 商品売買の会計処理②—たな卸資産の期末評価:資産と費用の関係
- 【第5回】 損益計算書の表示様式と構成(勘定式、報告式、費用収益対応の原則、費用配分の原則)
- 【第6回】 貸借対照表の表示様式と構成(勘定式、報告式、流動性配列法、流動・固定の分類規準)
- 【第7回】 財務分析の基礎(基数と序数:順序数)、専門知識と汎用知識の連携
- 【第8回】 財務諸表分析①:損益計算書の要点把握と分析(収益性分析)
- 【第9回】 財務諸表分析②:貸借対照表の要点把握と分析(安全性分析)
- 【第10回】 財務諸表分析③:損益計算書と貸借対照表の2つを用いる分析(総合的収益性分析)
- 【第11回】 財務諸表分析④:損益分岐点分析、管理会計と財務会計の役割
- 【第12回】 制度的基盤①(株式会社、資本の委託者と受託者、財務諸表の作成者と利用者:ステークホルダー)
- 【第13回】 制度的基盤②(店と奥の分離、所有と経営の分離、株主有限責任制)
- 【第14回】 会計準準と基本財務諸表4種類の全体像、そして会計監査の役割
- 【第15回】 学修内容の俯瞰(総論と各論の関係、関連諸科目との関係)